

うきは市管理構想策定について

令和 6年 10月
福岡県うきは市都市計画準備課
計画・調整係 熊懷 真孝

はじめまして。うきは市です。

The heart of
Kyuchu
UKIHA

福岡県うきは市の概要

平成17年に浮羽町と吉井町が合併

人口 27,457人(R6.9月末)

面積 117.46km²

歳出決算額 約176億円(R3年度)

職員数 234人

アクセス 福岡市から車で約60分
東は、大分県日田市に隣接

山麓部では果樹生産が多く、人口の割に
スイーツショップが多い(R5.夏時点で44店舗)
道の駅やJAの直売所は好調で集客も多い
コロナ前から古民家宿が増えており、コロナ禍でも
マイクロツーリズムの受け入れを増やしていた

2019年:241万人

2020年:223万人

2021年:230万人

2022年:261万人

※入込客数は2023版九州経済白書より



地域産業資源（農林水産物）



青ねぎ、アユ、いちご（あまおう）、オリーブ、柿、
県産小麦（品種名：ちくしW2号、商標：ラー麦）、県産大豆（フクユタカ）、
県産米（夢つくし、元気つくし）、竹材、なし、はかた一番どり、はかた地どり、
ぶどう、耳納杉、きくらげ、チョウザメ、いちじく、うきはの茶、カーネーション、
キウイ、四方竹、トマト、流川れんこん、桃、ヤマメ



フルーツ王国！と言い張る当市のフルーツカレンダー

柑橘 {12月-5月} 13種類

[甘夏]・[伊予柑]・[金柑]・[スイートスプリング]
[不知火]・[ネーブル]・[パール柑]・[八朔]
[はるか]・[晩白柚]・[文旦]・[紅はっさく]・[ボンカン]

いちご {11月-5月} 10種類

[あまおう]・[さちのか]・[さがほのか]・[紅ほっぺ]・[アスカルビー]
[淡雪(白)]・[章姫]・[かおり野]・[おいCベリー]・[恋のり]

柿 {9月-3月} 16種類

[西村早生]・[早秋]・[太秋]・[秋王]・[愛宕]・[甘秋]
[伊豆]・[小春]・[渋柿]・[新秋]・[貴秋]・[千秋]・[陽豊]
[早生富有]・[富有]・[冷蔵富有柿]

りんご {8月-1月} 4種類

[つがる]・[紅玉]・[シナノスイート]・[ふじ]

栗 {8月-12月} 6種類

[銀寄栗]・[国見栗]・[丹沢栗]・[筑波栗]
[森早生栗]・[利平栗]

ぶどう {6月-10月} 55種類

[BKシードレス(黒)]・[あかり(赤)]
[安芸クイン(赤)]・[あっぱれ(緑)]・[伊豆錦(黒)]
[ウینگ(黒)]・[オリエンタルスター(黒)]・[キタサキレッド(赤)]
[黄玉(黄)]・[キャン(黒)]・[巨峰(黒)]・[クインセブン(赤)]
[クイーンニーナ(赤)]・[カルガロローズ(ピンク)]・[黒いアルファ(黒)]
[黒いバラード(黒)]・[黒いベール(黒)]・[恋人(赤)]
[ゴールドフィンガー(黄)]・[コトビー(赤)]・[ゴルビー(赤)]
[サニードルチェ(赤)]・[サンヴェルデ(黄)]・[ブラックフィンガー(黒)]
[ネヘレスコール(緑)]・[シナノスマイル(赤)]・[しまねスイート(緑)]
[シャイニーレディ(赤)]・[シャインマスカット(緑)]・[昭平紅(赤)]
[瀬戸ジャイアンツ(緑)]・[高墨]・[多摩ゆたか(黄)]・[デラ(赤)]・[天山(緑)]
[バイオレットキング(赤)]・[ビオーネ(黒)]・[藤稔(黒)]・[ブラックビート(黒)]
[紅環(ピンク)]・[ベニバラード(赤)]・[ベニフジ(赤)]・[マイハート(赤)]
[マニユキフィンガー(赤)]・[翠峰(緑)]・[雄宝(緑)]・[陽峰(赤)]
[リザマート(赤)]・[ロザリオピアンコ(緑)]・[竜玉(赤)]・[マスカットベリーA(赤)]
[ハイベリー(赤)]・[紫玉(黒)]・[47ハニーシードレス(緑)]・[種無し巨峰(黒)]



FRUIT VARIETIES

うきはの主なフルーツ

品種一覧

年間を通してたくさんのフルーツが実るうきは。
季節の恵みに感謝して、旬を存分に味わおう。

桃 {6月中旬-8月} 41種類

[愛川中島]・[あかつき]・[浅間白桃]・[あまづし]
[あまとう]・[黄金桃]・[川中島白桃]・[勘助白桃]
[紅川中島]・[恋みらい]・[さおとめ]・[幸蒔]・[志賀白桃]
[清水]・[太陽]・[滝ノ沢ゴールド]・[武井白鳳]・[千曲白鳳]
[ちよひめ]・[千代丸]・[月あかり]・[つきかがみ]・[長沢白鳳]
[夏おとめ]・[夏っこ]・[西王母]・[橋場白鳳]・[はなよめ]
[日川白鳳]・[ひめこなつ]・[福乙女]・[みかさっ娘]
[みさか白鳳]・[桃山]・[八幡白鳳]・[夢富士]・[レイホウ]
[さくひめ]・[ゆうぞら]・[美郷]・[蟠桃]

すもも {6月-7月} 5種類

[大石早生]・[ソルダム]・[メスレ]
[サンタローザ]・[サマーエンジェル]

ブルーベリー {6月下旬-9月下旬} 3種類

[ノーザンハイブッシュ系各種]・[サザンハイブッシュ系各種]
[ラビットアイ系各種]

いちじく {6月-12月} 2種類

[ドーフィン]・[とよみつひめ]

梨 {7月-11月} 18種類

[愛甘水]・[あきづき]・[秋水]・[愛宕]・[幸水]・[新興]・[新高]
[二十世紀]・[晩三吉]・[豊水]・[洋なし]・[なつしずく]・[王秋]
[南水]・[夏水]・[甘太]・[にっこり]・[玉水(2023年頃出荷)]

地域産業資源

(文化財、自然の風景他、温泉その他の地域の観光資源)



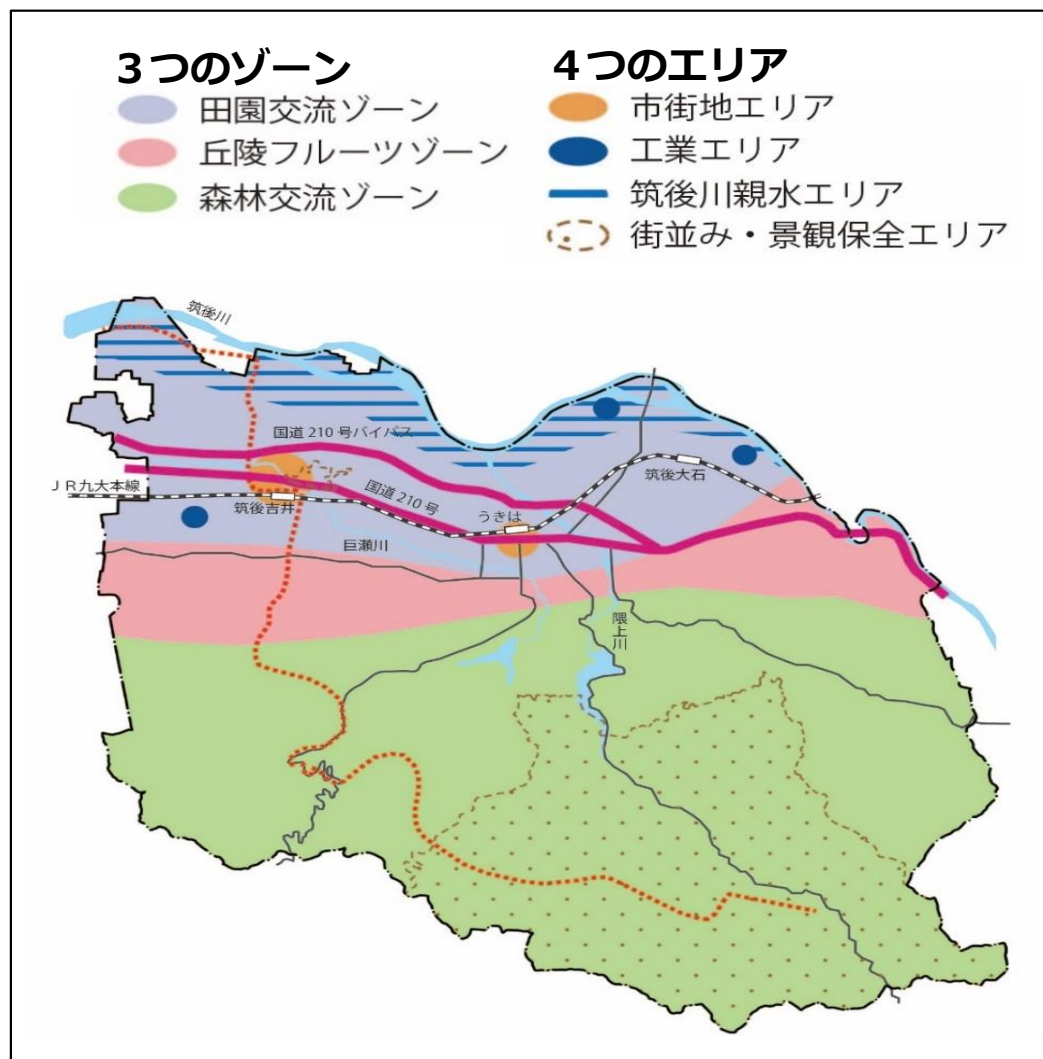
うきは市の白壁土蔵作りの町並み、浮羽稲荷神社、大石堰・大石長野水道、筑後川、筑後川温泉、道の駅うきは、清水湧水、調音の滝、つづら棚田、森林セラピー
(4つの百選、疎水、棚田、水源の森、名水)

The heart of
Kyushu
UKIHA



福岡県うきは市の土地利用の特徴

◆ ゾーン・エリア別の土地の利用・管理の方針



都市計画等の状況

- ・市域半分は平野(農業地帯)で準都市計画区域(H20年3月末指定)
- ・用途地域、線引き無し、建ぺい70%、容積200%
- ・市域の残り半分は中山間地地域で、都計外
- ・2つの重要伝統的建造物群保存地区(筑後吉井、新川田箆)
- ・景観計画は策定済
- ・国土利用計画は策定していない

・田園交流ゾーンでは、中心地域に筑後吉井 白壁の町並み(重伝建)、北部市境に筑後川や工業団地、西部市境にも工業団地がある。
現在、西部に新産業団地(約27ha)を準備中。

・丘陵フルーツゾーンではカキ、ナシ、モモ、ブドウ等の果樹栽培が盛んだが、急峻な場所では耕作放棄の懸念もある。

・森林交流ゾーンでは、隈上川沿いに新川田箆(重伝建)があり、その地区周辺は景観計画でも文化的景観範囲としている。茶業も盛んで八女茶として出荷されている。

The heart of
Kyushu
UKIHA

管理構想策定のきっかけ

うきは市役所における課題～都市計画からの派生～

1. 長年の課題

旧町時代より都市計画の指定がないまま平成17年に合併。その後都市計画の導入を検討したが、平成20年3月末に準都市計画区域の指定を受けるに止まる。検討を重ねるも、平成24年～複数年にかけ九州北部豪雨災害等の復旧に注力したのち、再度都市計画へ向けた議論が高まる。

2. 部署の設置

都市計画導入へ向けた部署として、令和2年度より都市計画準備課が設置される。

「このタイミングで都市計画を設定するのであれば、現状の土地利用について地域住民や市役所内部でも話す機会を持ったうえで進めたい」という市長の想いがあったが、コロナ禍であったためなかなか協議や意見聴取等進めにくい状況であった。

3. きっかけ

令和3年度に異動してきた私が、土地利用や都市計画に無知であったため、国土交通大学校の「国土利用計画研修」を受講することに。

その後、国土交通省の担当官と当時の上司が意見交換をした際に、

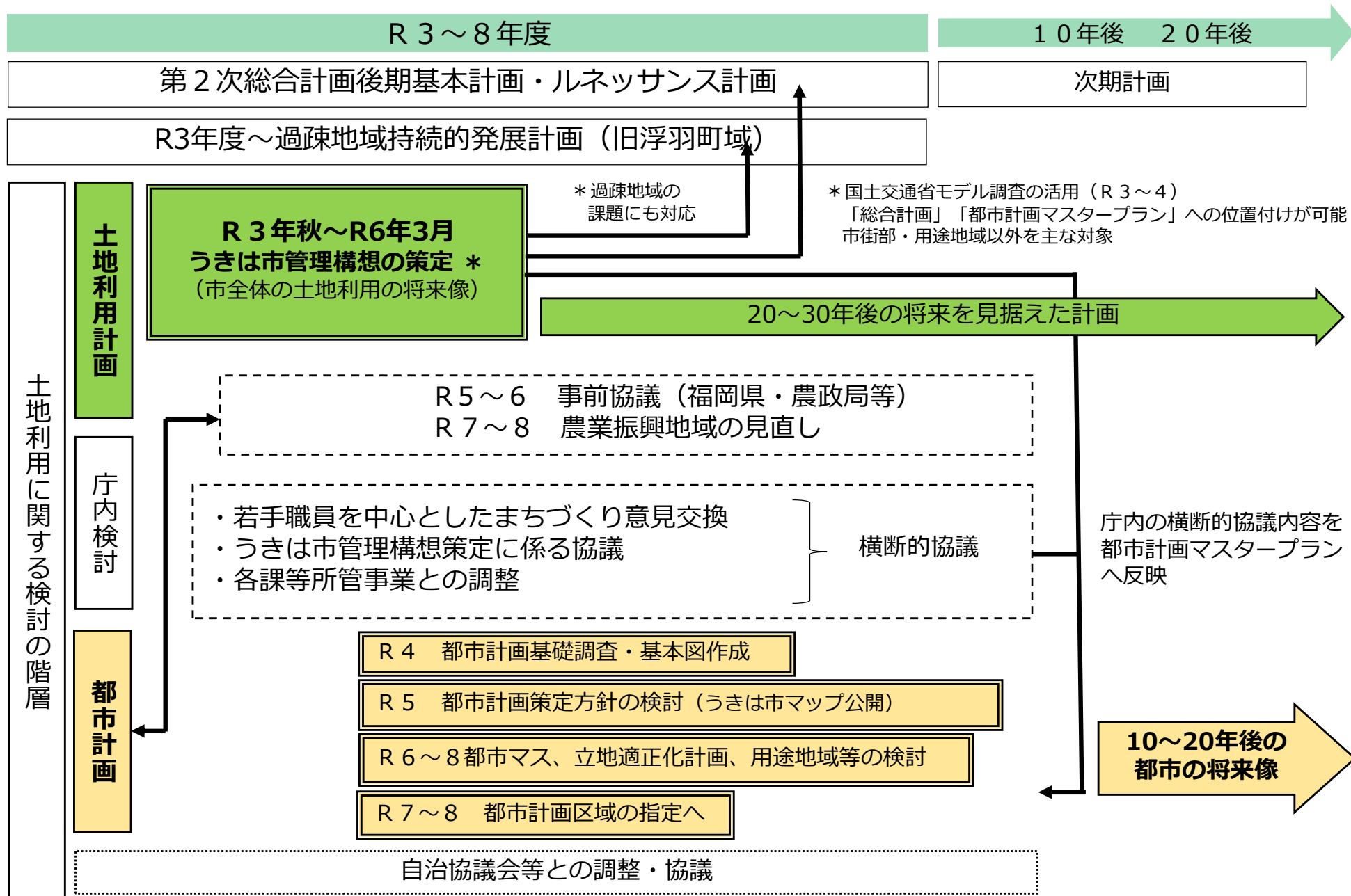
「管理構想の狙いとうきは市が求めていたことが合致している」と分かる。

- 市全体の土地利用のあり方について分野横断的な視点から検討ができること
- 管理構想で行う作業（「地図の見える化」など）は地域住民と土地利用について協議する際に有用であること

→結果、モデル事業に手を挙げ、管理構想の策定に取り組むこととなる。



うきは市将来の土地利用構想 計画関連・工程（R6年度時点）



管理構想の進め方

管理構想の進め方～R3年11月～R6年3月まで～

検討体制とスケジュール

- ①R3.11月～ ○市保有データ、国勢調査等のデータ等の公開データの収集・整理
- ②R4. 2月 ●第1回検討部会（現状・将来予測等の確認、情報の補足・意見交換）
- ③R4. 5月 ●第2回検討部会（土地の利用・管理の状況及び役割・効果）
- ④R4. 7月 ●第3回検討部会（発生が懸念される問題や期待される可能性、目指すべき将来像と対応すべき課題）
- ⑤R4.10月 ○うきは市管理構想 構成案の作成
- ⑥R5.3月 ○うきは市管理構想（たたき台）の作成
- ⑦R5.12月 ○うきは市管理構想（素案）の作成
- ⑧R5.12月 ○パブリックコメント（1カ月間）
- ⑨R6. 3月 ○うきは市管理構想 策定（HP公表）

※国土管理企画室、コンサルの方々とは必要に応じてオンラインMTGを実施していただきました。

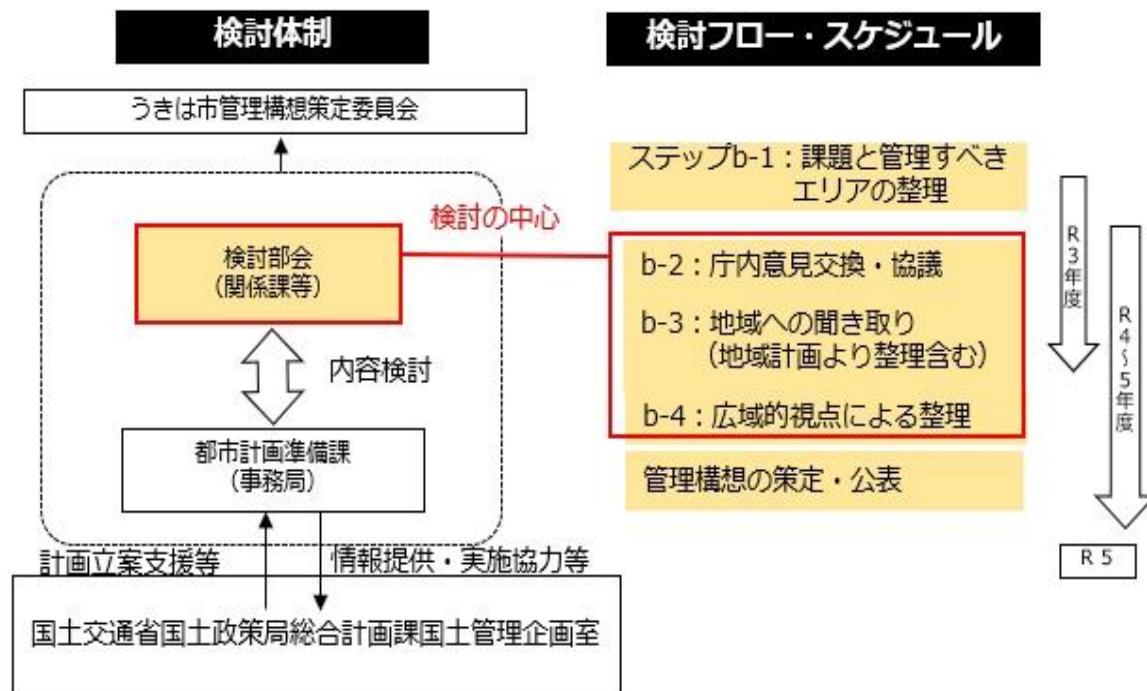
■第1回・第2回検討部会の風景



東京⇄福岡オンライン開催



コロナの合間に対面でも開催



うきは市管理構想の概要

- 市土全体として目指す管理のあり方、市として対応すべき課題、管理すべきエリア等を示し、市町村管理構想図として地図化。
- 各部署や地域等が行っている取組について、具体的なエリアを想定しながら、その連携・調整を推進。
- 市又は地域が土地の利用・管理に向けた取組を進める際の指針とする。

うきは市管理構想のポイント

1) 利用と管理を一体化した計画（全体）

- 土地の管理の計画としての市町村管理構想の特徴を生かしつつ、既存の土地利用の方針を示していた新市建設計画の考えを踏まえた計画として策定。

2) 担い手たちが同じ方向を向くためのビジョンを提示（第2、3章）

- 担い手である市民、地域、事業者、団体、行政等が同じ方向を向いて市土の利用・管理を進めるために、将来の状況や土地の管理の必要性などを踏まえたビジョンを提示。

3) 5つの課題を柱に現状から措置の概要までを整理（第3章）

- 第2章で掲げた基本構想を念頭に置きつつ、第3章では土地の利用・管理に関する課題への対応に焦点を当てた。
- 検討部会での話し合いの結果を踏まえ、「集落機能の維持」、「宅地・インフラ」、「農地」、「森林」、「歴史文化・町並み、自然環境・景観の保全と活用」の5課題を柱に設定。

4) 地図やデータによる現状、将来、課題等の見える化（全体）

- 農地、宅地、森林、産業等の個別の課題を空間的に結び付け、今後の対応の指針となる考え方を提示。
- 情報の地図化を進め、問題や課題のあるエリアを可視化。農地の荒廃、森林管理、景観保全など、テーマごとに問題や課題のあるエリアが異なること、様々な問題が複合的に重なるエリアの存在等を確認。
- 今後見込まれる負担について実感を持ってもらうため、道路・橋梁、上下水道などインフラにかかるコスト（維持管理費）をわかりやすく明示。
- 整理した情報は、庁内調整での状況共有や議論に活用。

うきは市管理構想の構成

第1章 構想の目的等

1. 策定の背景
2. うきは市管理構想の位置付け等
3. うきは市の土地の状況

第2章 市土の土地の利用・管理に関する基本構想

1. 目指す将来像と基本的な考え方
2. ゾーン・エリア別の土地の利用・管理の方針
3. 土地利用方針図

第3章 市土の利用・管理に関する現状・将来予測、課題と必要な措置の概要

1. 集落機能の維持
2. 宅地・インフラ
3. 農地
4. 森林
5. 歴史文化・町並み、自然環境・景観
6. 管理構想図

第4章 計画の実現に向けて

1. 計画の評価・見直しと推進体制
2. 今後10年間の主要な取組の行動計画

うきは市管理構想 第1章 構想の目的等

・ 今、なぜうきは市で土地の利用・管理に取り組まなければならないのか？

構想策定の背景やうきは市の土地をめぐる状況を簡潔にまとめるとともに、第2章以降につながる視点を頭出しするため、R4年2～7月に関係各課の職員を構成員とする検討部会の場で話し合われた課題、検討結果を整理

◆ 策定の背景

- ・ 今後、市土を取り巻く状況は更に厳しくなるものの、状況の変化は逆に新たなチャンスをもたらす可能性がある。
- ・ 担い手である市民、地域、事業者、団体、行政等が同じ方向を向いて市土の利用・管理を進めるため、共有できるビジョンが必要。
- ・ 守るべきものの認識を共有し、優先度をつけ、意識的に守り、利用していくことがこれまで以上に重要。
- ・ 今までのやり方を続けることが必ずしも正解ではない。これからの10年、どう取り組むかをともに考え、意識を共有することが必要。

◆ うきは市の土地の状況

✓ 暮らし・環境を支える土地の管理と人口減少による影響

管理の効果・役割（必要性）

人々が安心して暮らし続けるには、土地を適正に管理することが必要

- ・ 人口減少・高齢化の影響により、従前どおりに暮らすことが厳しくなり、その結果、地域からの人口流出が進み、さらに手が回らなくなるといふ悪循環に陥る。

人口減少・高齢化の進展による影響

人口減少対策を行っても減少は進む（ただし、やり方次第で減少のスピードを緩めることは可能）

いずれにせよ全ての土地をこれまでどおりに利用・管理することは不可能

- ・ 市の税収は減少し、行政運営は厳しさを増していく。
- ・ 土地の利用・管理にかけられる費用や労力も減少していく。
- ・ 担い手不足が進行し、土地の管理水準は低下し、遊休地は増加する（担い手一人当たりの負担は増大する）。
- ・ 農林業など地域を支える産業にも影響が及ぶ。
- ・ 町並みの維持や道路・上下水道等のインフラの維持管理も困難に。

✓ 土地と関わりをもつうきは市の資源

人口減少が進む中、何の対策も講じなければ、これまで地域の人々が暮らしを営む中で日常的に管理を行い、農林業等の活動を行うことによって維持してきた“資源”は縮小・衰退し、市の産業や日々の暮らしにも負の影響が生じる

豊かな水資源



九州でも有数の農業生産（フルーツ王国）



暮らしや自然が織りなす多彩な町並み・風景



写真出典：
うきは市テロワールホームページ、
うきはフィルムコミッションホームページ、うきは市観光みらいづくり公社ホームページ

うきは市管理構想 第2章 市土の土地の利用・管理に関する基本構想

市土の利用・管理を進めるために、その担い手たちが共有できるビジョンとは？

第1章の目的に沿って、今後の土地の利用・管理に向けたビジョンを、検討部会での話合いの結果や既存計画の方向性を踏まえて整理

◆ 目指す将来像と基本的な考え方

(1) 目指す将来像

住み続けたい、住み続けられるまち

- ① 年代に関係なく、人と人とのつながりを感じられるまち
- ② 働きやすく、子どもから大人、高齢者まで誰もが暮らしやすいまち

ポテンシャルが発揮されるまち

- ① フルーツ王国・観光地としてのブランド力があるまち
- ② 美しい景観・町並み、豊かな自然を活かした生活の営み、土地利用ができるまち
- ③ 地下水と共生するまち
- ④ 土地・資源の持つ可能性を顕現化させ交流が進むまち

(2) 土地利用・管理の方向性

- ① 自然環境と歴史・文化を基本とした地形や地域特性にあった利用
- ② 荒廃させず良好な状態で管理
- ③ 地域づくり、まちづくりへの展開を意識

(3) 取組の方向性

- ① 土地の使い方を選ぶ
- ② 適切な都市・生活機能の配置を進める
- ③ 立場やエリア、分野を超えた連携
- ④ 変化やチャンスに機動的かつ柔軟に対応する姿勢の構築

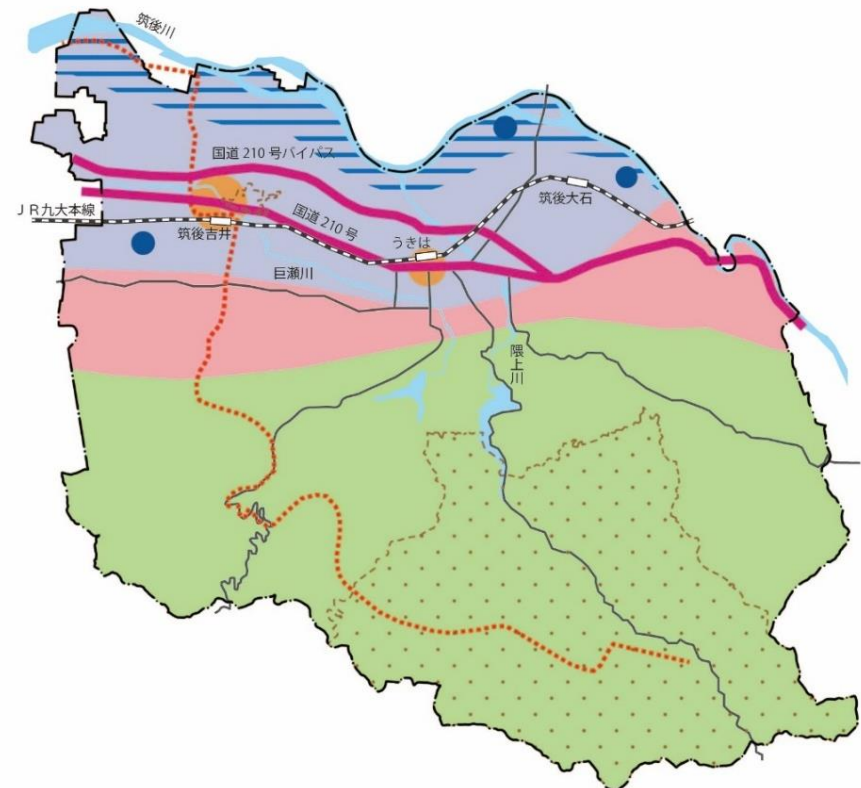
◆ ゾーン・エリア別の土地の利用・管理の方針

3つのゾーン

- 田園交流ゾーン
- 丘陵フルーツゾーン
- 森林交流ゾーン

4つのエリア

- 市街地エリア
- 工業エリア
- 筑後川親水エリア
- 街並み・景観保全エリア



うきは市管理構想 第3章 市土の利用・管理に関する現状・将来予測、課題と必要な措置の概要

- ・ **土地の利用・管理の課題は何か？課題解決のために何に取り組むか？**
- ・ 土地の利用・管理に関わる5つの柱ごとに、「現状と将来予測」から「対応すべき課題、エリア及び措置の概要」までを一体的に整理

◆ 5つの柱

1. 集落機能の維持

2. 宅地・インフラ

3. 農地

4. 森林

5. 歴史文化・町並み、自然環境・景観

例えば・・・

(1) 現状と将来予測

✓ 客観的なデータ等を踏まえて様々な角度から状況を整理

[文末記号の意味] D：統計情報、M：地図情報、O：庁内意見

現状

人口減少・高齢化の進展

- ・ 市の人口は20年前と比べて約18%減少。人口減少が進行している（特に山間部）が、平野部の一部地区では、若い世代が増加 DM
- ・ 高齢化は市全体で進行（特に山間部で顕著）DM
- ・ H24の豪雨被害をきっかけに、山間部から平野部への人口移動が進行 O
- ・ 人口減少や高齢化、居住者意識の変化等により、地域活動や伝統的な行事の継続が困難に O

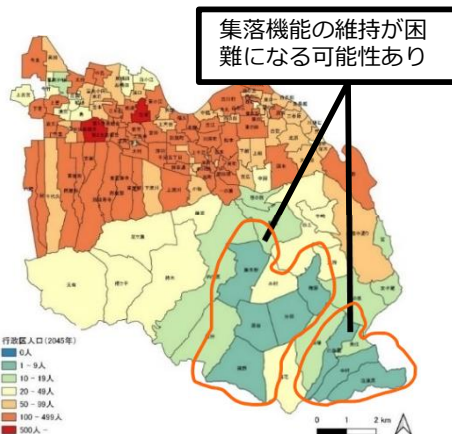
発生している問題

／近年の変化や期待

- ・ 地方移住の関心の高まり
- ・ コミュニティに対する住民意識の変化

将来予測

- ・ 市の人口は、今後20年で約20%減少 D
- ・ 山間部で過疎化や高齢化率50%以上の地区が拡大 DM
- ・ 集落の維持が困難になることが予測される地区が18集落にのぼる（特に山間部の新川、田籠等が深刻）DM



(2) 対応すべき課題とエリアと措置の概要

✓ (1) や検討部会で出された職員提案を踏まえ、これまで行ってきた対応の見直しも含めて検討

「地域活動やコミュニティの維持」

対応すべき課題

現状のまま状況が推移すると地域活動やコミュニティの維持は難しい。地域に入るための条件整備を地域側が行い、地域の魅力を発信することで、地域の思いに合致した人が入ってくる可能性がある。

対応が求められるエリア

(平野部～山麓部)

● 既存市街地・集落

空洞化が懸念される中での地域運営のあり方を検討

● 既存市街地・集落の周辺部

新規住民等の居心地を考慮した地域運営のあり方を検討

(山間部)

● 山間集落

過疎化が進む中での地域運営のあり方を検討
棚田保全のための運営組織の基盤構築と資金確保

措置の概要

- ・ 既存の地域運営のあり方の見直し
- ・ 地域活動の枠組みの見直し
- ・ 地域活動等の必要性に関する理解醸成・意識啓発
- ・ 地域の課題解決や新しい取組へのサポート
- ・ 空き家活用の仕組みの構築（山間部等）

- ・ **課題への対応が求められるエリアはどこか？**
- ・ 5つの柱の中で【対応が求められるエリア】として挙げられた内容を管理構想図として図化。

管理構想図

山間部

○集落

- ・ 地域活動やコミュニティの維持（過疎化が進む中で地域の運営、棚田保全の体制・資金の確保）
- ・ 居住地として選ばれる安全で安心して暮らせる生活環境の形成

○農用地・農振白地

- ・ 棚田の維持・保全

● 既存市街地・集落（平野部・丘陵部）

● 既存市街地・集落（山間部）

● 農用地

● 既存市街地・集落、農用地の周辺部

● 森林

● 伝統的建造物群保存地区

● 古墳群（主なもの）

● 文化的景観

吉井地区、新川・田籠地区、古墳群、文化的景観

- ・ 歴史文化資源の活用と保全

平野部～山麓部

○既存市街地・集落

- ・ 定住人口の確保
- ・ 地域活動やコミュニティの維持（空洞化が懸念される中での地域運営のあり方）
- ・ 居住地として選ばれる安全で安心して暮らせる生活環境の形成

○既存市街地・集落の周辺部

- ・ 地域活動やコミュニティの維持（新規住民との新しい地域運営）
- ・ 人口減少に対応した市街地・集落基盤の再構築

○農用地・農振白地

- ・ 農業基盤の維持

森林

- ・ 森林、自然環境に配慮した取組

— 主な河川・水面

— 鉄道

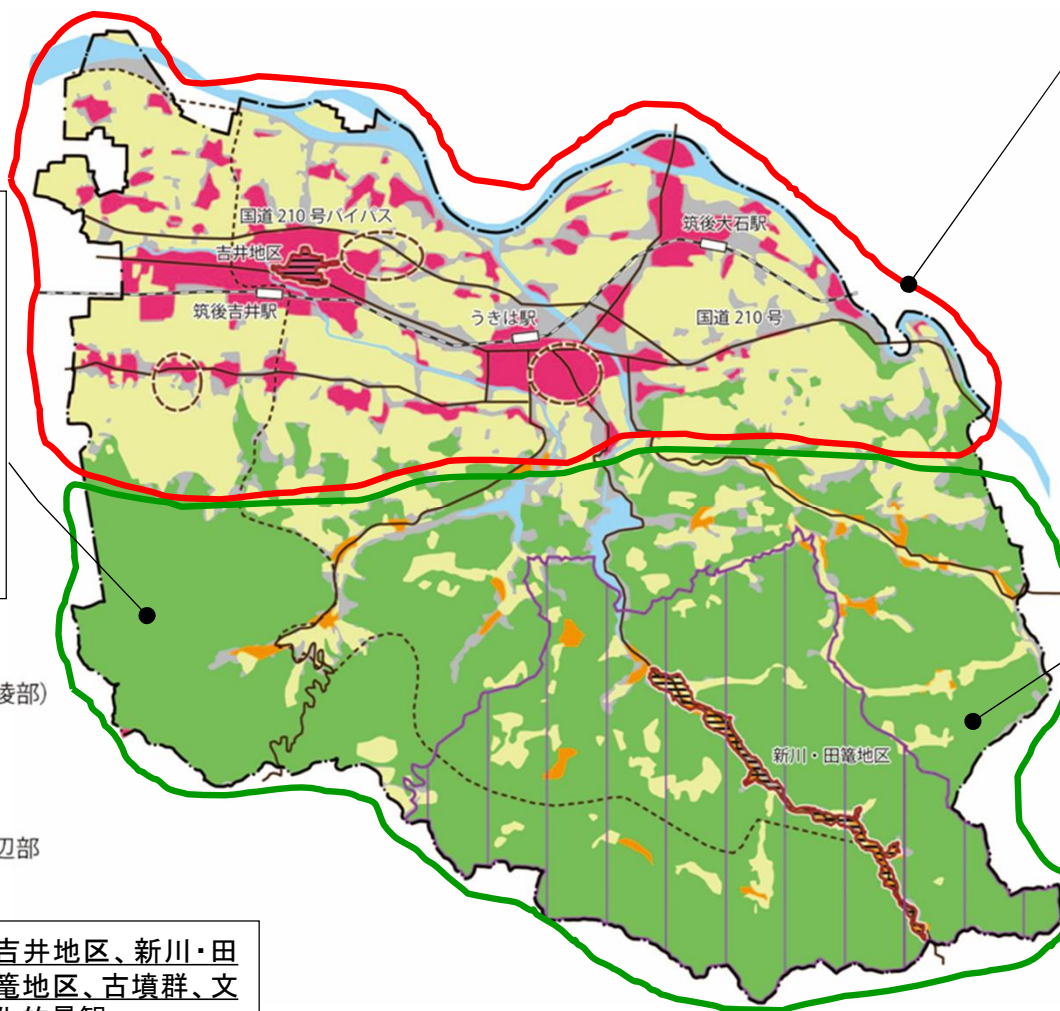
— 主要道路（国道・県道等）

— 主要道路（基幹林道）

○ うきは市行政区域

市域全域

- ・ 再生可能エネルギー施設等の適地への立地促進



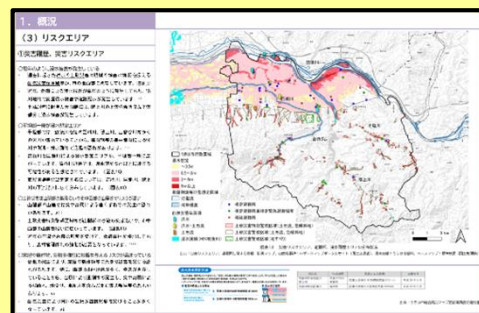
検討過程の詳細① 現状把握及び将来予測

- ・うきは市の保有データ、国勢調査等のデータ、関連計画等の情報を収集し、これらの情報を整理。
- ・基礎調査で捉えていない現状や場所に関する情報について改めて情報を収集・補足。

市土に関する基礎情報からの現状把握及び将来予測：ステップ①

基礎情報の整理

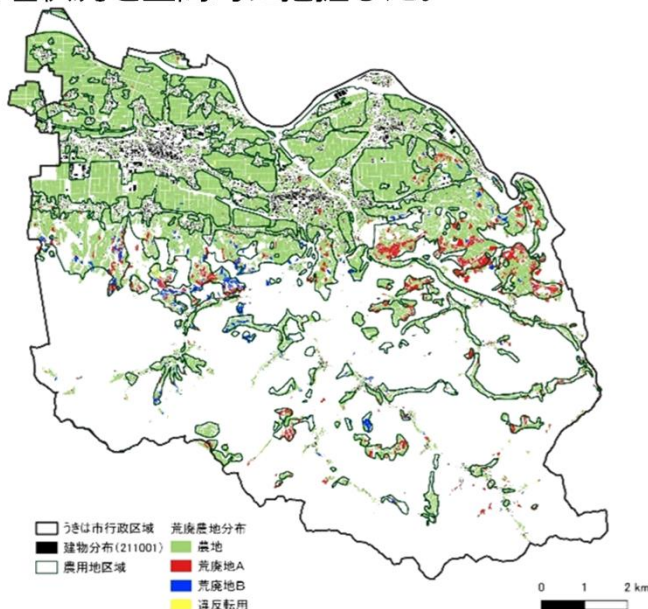
策定プロセスに示された調査項目に加え、土地利用に関する項目を追加調査。関連計画の情報とともに収集した項目ごとにカルテ形式に整理。地図に落ちる情報は極力地図化。



情報のカルテ化

【補足】筆単位のデータの効果

うきは市所有のGISデータ（農地は筆単位、森林は林班単位）と各種台帳等のデータを紐づけることで農地・森林の利用・管理状況を空間的に把握した。



筆単位の農地GISデータに荒廃農地の情報を紐づけ（農地台帳）

庁内の意見交換・協議による整理：ステップ②

関連計画の整理

土地の利用や管理に関する市の認識を確認するため、現状や課題認識に関する情報を収集・整理

検討部会での意見交換（1回目）

現状・将来予測等の確認、情報の補足、意見交換

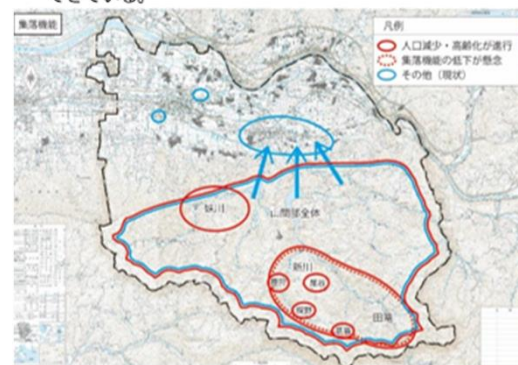


【補足】統計データで把握できない情報の可視化

過去の災害による人口移転など、統計情報で把握しきれない動向を検討部会の意見等を踏まえて見える化。

（1）集落維持の状況

- ・人口減少や高齢化、居住者意識の変化等により、集落で行っている地域活動の維持が難しくなっている地域が出てきている。



図表 集落機能に関して把握した情報

発生している問題

○担い手不足により地域活動が維持できない

- ・人口減少・高齢化（新川、田端などの山間部）
- ・地域活動への参加者不足（吉井、千年など人口増加エリア）

○祭り・伝統行事の継続困難

- ・人口減少、担い手不足

検討部会の意見を図化（集落の維持の状況に関する図）

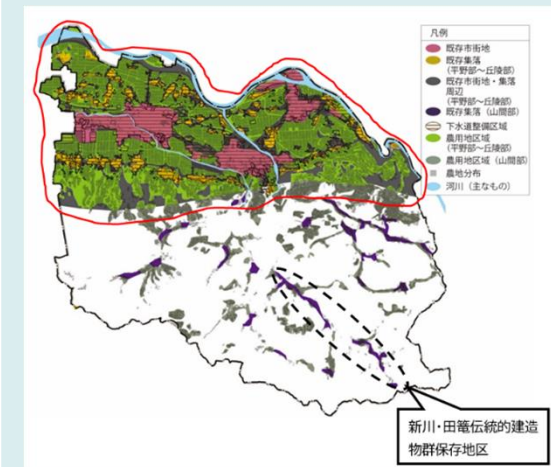
検討過程の詳細② うきは市管理構想の策定

・ステップ①の結果やステップ②～④の検討部会での意見等を踏まえて、対応すべき課題と管理すべきエリアの案及び、検討に向けた論点について整理

現状把握及び将来予測を受けた、対応すべき課題と管理すべきエリアの整理：ステップ⑤

ステップ①の結果やステップ②～④の検討部会での意見等を踏まえ、対応すべき課題と管理すべきエリアの案及び、検討に向けた論点について整理

- 提案した課題案
- 1. 定住人口の確保と地域活動やコミュニティの維持
 - 2. 人口減少等に対応した市街地・集落基盤・環境の形成
 - 3. 農業基盤の維持
 - 4. 歴史・文化・街並みの保存と活用
 - 5. 自然環境の保全・活用



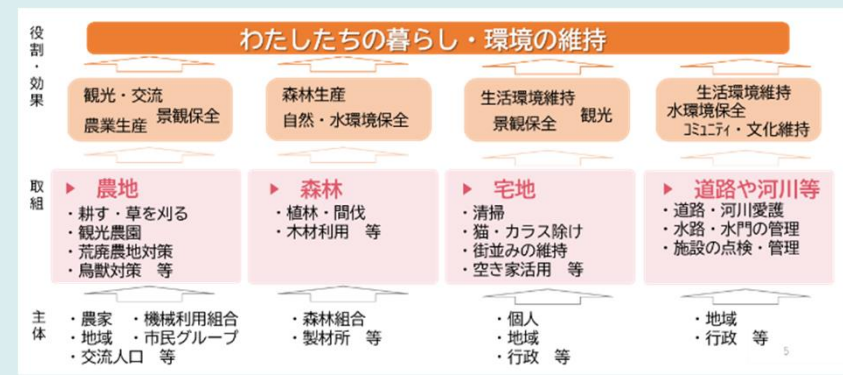
検討に際し、管理すべきエリアの案を地図化し、庁内検討の素材とした

図表
既存市街地・集落の分布と下水道区域、農用地区域、農地の分布

庁内の意見交換・協議による整理：ステップ③

検討部会での意見交換（2回目）

- 目的：現状と将来予測に関する内容充実のための意見交換
- 実施内容：
 - ①土地の利用・管理の状況について
 - ②土地の利用・管理に関する取組、その役割や効果



庁内の意見交換・協議による整理：ステップ④

検討部会での意見交換（3回目）

- 目的：これまでに収集、整理した情報を踏まえ、将来や課題に関する意見交換
- 実施内容：
 - ①将来発生が懸念される問題や期待される可能性
 - ②目指す将来像とそのために対応すべき課題



うきは市管理構想（構成案）を作成

検討過程の詳細② うきは市管理構想の策定

- ・ 構成案やたたき台を踏まえ、庁内調整及び議会自治協議会に対する説明を経てうきは市管理構想（素案）を作成
- ・ パブリックコメントを経てうきは市管理構想を策定

市町村管理構想の検討:ステップ⑤

構成案の検討・調整（庁内調整）

ステップ⑥-1で整理した課題及び論点を中心に関係課と調整

【主な調整対象課】

企画財政課、農林振興課、市民協働推進課、建設課、生涯学習課、うきはブランド推進課、市民生活課、水環境課

構想の検討で新たな方向性が打ち出せた内容の例

- 都市計画の導入を進める際に関連部門と足並みを合わせることを確認（農業農用地の見直し、上水道事業の導入是非の検討、下水道計画の見直し）
- 地域の課題解決や新しい取組に向け、行政の縦割りを超えたサポートの実施

うきは市管理構想（たたき台）を作成

市町村管理構想の検討:ステップ⑦

たたき台の検討・調整（庁内調整）

たたき台を踏まえて関係課と調整

ステップ：地域への聞き取りによる整理⑦

議会や自治協議会に対する説明の実施

うきは市管理構想（たたき台）について住民等の意見を反映するため、実施

うきは市管理構想（素案）を作成

ステップ⑧：地域への聞き取りによる整理 → ステップ⑨：パブリックコメント実施

うきは市管理構想を策定

管理構想策定の意義

担当職員として感じたことなど

1.土地の優先順位について

土地の優先順位という考え方は、担当レベルや自治会等の中には潜在的にあったと思うが、計画の中にインフラ・農地・宅地等に関して管理の加減を変えるべきと明文化したことは初めてのことで捉えている。ただし明確な順位付けが出来た訳ではなく、順位付けをしていくという意思表示だけしか出来ていないため、今後の個別計画で具体化していくことが望まれる。

2.実行性を持った計画とするために

管理構想推進委員会（事務局：都市計画準備課）を設置して、計画の経過検証および構想の見直しを検討する。地区自治協議会等との協議の場を持ちながら、地区協議会の地域計画の見直しの際には地域や土地の管理状況等についても関与していく。令和6年度は都市計画マスタープランのたたき台を作成中で、11月にアンケートを取った上で、庁内協議を行う予定である。

3.策定した意義、その他感じたこと

土地利用の課題・将来予測について庁内外で話をする機会を持つことが出来た。市役所では担当、係長レベルでどうにかしないと・・・と悩んでいた課題を、多数の部署が共有し市全体として共有し他人事ではないという雰囲気醸成出来た。策定に向け、たたき台を作成しそれを各担当との調整を行うなかで、担当者間で互いの約束事のような雰囲気が出来た。

補助金を活用するための計画ではなく、今後この地域内で何が課題で何に対処していくべきかを協議することは必ず必要になる。早いか遅いかだけの話であるので、悩ましいことがある市町村ほど早めに取り組むことをお勧めする。ちなみに私はスケジュールを半年以上遅らせてしまいましたが、なんとか公開までたどり着きました。伴走いただいた国土管理企画室、地域総合計画研究所の皆様ののおかげです。

ご清聴ありがとうございました。

